

姉妹

2023.9.23

もう半年以上前になる。長年乗り続け、走行距離38万キロに迫っていたヴェルファイアを手放した。もうすぐ月に到達しようかというところで、あつけなく別れを告げた。それは、今の車との出会いがあったからである。決して買おうと思っていたのではない。とりあえず見に行ってみるか。それだけのはずだった。ところが、あれよあれよという間に、ご購入となった。こういったことは今までもあった。何でもそうだが、出会いがすべてである。

ヴェルファイアのナンバーは、「ゴーゴーパパ」と「ゴーゴー母」とをかけてみたものだった。これがすっかり定着し、「高澤先生、この前〇〇あたりを走っていませんか」などとよく聞かれた。きっと、兄弟車であるアルファードの同じナンバーと間違えているのではと推察した。

新しい車にして、2か月後ぐらいだったか、市役所の駐車場に車を停めたことがあった。数日後、ある方から、「高澤先生、車をかえたんですね」「どうしてわかったの?」「この前、市役所に停まってあったから」その方は、車種と車のナンバーだけから、私の新しい車だと判断したらしい。確かに、以前、その方に次はこんな車に乗りたいと話したことがあった。それを覚えてくれていた。ナンバーは、私が考えそうな数字だと思ったのだろう。恐れ入った。

私の車と家人の車は姉妹の関係にある。家人の車は、ジュリエッタである。車名の語源はロミオとジュリエットに由来する。こちらが妹なのだが、不思議なことに姉であるジュリアよりも先に世に出た。ジュリエッタは、妹を意味する接尾語をジュリアに付け加えたものである。

私の車は、姉にあたるジュリアである。我が家には、アルファロメオの姉妹がそろっていることになる。ディーラーも一緒である。福島を走っていると、ジュリエッタはたまに見かける。ところが、ジュリアは我が家を含めても3台しか見ていない。長男と長女が都会にいたので、首都圏を走ることがある。やたらとベンツとBMWが多い。だが、ジュリアには会わない。いつだったか、東北自動車道のサービスエリアに車を停めた。すぐ後ろにジュリアがあった。家人とじろじろ見ていたら、持ち主が登場した。自然と互いに笑顔になった。通じるものがあった。

ジュリエッタもそうだがジュリアは、日本車よりも総合的に何がいいわけではない。スタイルと走りがいいだけである。今のところジュリアは無事だが、ジュリエッタは、不具合を起こすことがある。だが、走りには全く影響はない。イタリア車だと思うと、あきらめがつくからおもしろい。

ヴェルファイアには愛着はあった。しかし、乗りたい車ではなかった。実用性を重視した結果である。ジュリアは乗りたい車である。だから、いつもきれいにしている。私が乗る最後のガソリン車だと思っている。何年乗るかはわからないが、ずっと大事にしたい。イタリアの人は、物を直し直し使う。車もそうである。ジュリエッタとともに、姉妹そろって長生きさせたい。